

中学校社会科学習指導案

広島県立教育センター
指導主事 松栄 健吾

1 日 時 平成 年 月 日 ()

2 分 野 地理的分野

3 学 年 第2学年

4 単 元 『世界と日本の産業』

5 単元について

(1) 単元観

本単元は、我が国の地域的特色を資源や産業の面から追求し、理解させることを主なねらいとしている。世界にはエネルギー資源や鉱産資源が不均等に分布する中で、我が国はそれらの資源のほとんどに恵まれていないため、国内で消費するそれらの資源の大部分を海外からの輸入に依存している。そうした中で、科学技術の開発に努め、豊かな労働力を生かして工業の発達に努めてきた。また、我が国は土地の有効利用に工夫、努力してきた結果、都市においても農村においても土地の高度利用が目立つ。さらに、国民総生産を国別の統計で比較すると、我が国は世界的にみて高い水準にあることなどから、産業活動が活発であることが指摘できる。世界的視点で見ると我が国は先進工業国といった特色でとらえられているが、日本全体の視野でみると、自然的条件や社会的条件によって地域的分業が進み、また、各産業地域は変容している。

小単元「世界の中の日本の農業」では、自然的条件や社会的条件によって農業の方法が異なることを理解させる。日本でも各地域で異なった農業経営が行われていることを理解させるとともに、アジアの農業の特色について知る。さらに、日本の農業が抱える兼業農家の増加や輸入自由化による競争の激化などの問題について考えさせる。

本時では、日本の農業の特色の一つである農業の多角化の事例として青森県のりんご栽培について取り上げる。青森県を含む東北地方は、米づくりも盛んで「日本の穀倉」といわれているが、同時に果樹生産も多く、全国的にも高い水準にある。これらの事実をもとに「米づくりが盛んなのに、なぜ、りんごの栽培を始めたのか」を考える中で、自然的条件や社会的条件を生かした農業経営を理解させたい。また、厳しい自然環境の中で生活を築いてきた人々の知恵や努力にもふれさせたい。

(2) 生徒観

省略

(3) 指導観

指導にあたっては、学習課題に迫るための様々な資料を提示する中で、生徒たちが「自ら考え、発表する」場を取り入れた学習展開を考えていく。特に本時では、自然的条件や社会的条件を生かした日本の農業の特色である農業の多角化の事例として、青森県のりんご栽培を取り上げる。労働の割に収入が少なく、価格も不安定であり、労働もきついのに、なぜりんごづくりが米づくりとともにおこなわれているのかについて考えさせたい。このことを通して、青森県が冷害の被害を受けやすかったため、りんごづくりによってその被害を補おうとして栽培されたものであることを、米やりんごの作況指数などの統計資料を通して理解させていく。

授業展開では、指導者による発問に対して、提示された資料をもとに生徒が考え答えるという形をとる。グラフを中心とする資料を読み取る際には視点を明確にするなど、まわりの生徒の意見を参考としながらも、主体的に学習課題に迫ることができるようにしていく。

6 単元の目標

世界の地下資源の分布図を読み取ったり、産業から見た世界の主な国の分布を考えたり、土地利用を世界の主な国と日本とを比較したりするなどの活動を通して、世界的視野からみた日本の産業の特色を明らかにさせる。

都道府県や工業地帯・地域の工業出荷額などの統計を地図上に表現したり、農業や漁業と自然条件との関連を考えたりする活動を通して、日本の工業の中心は太平洋ベルトであり、また、各地に地域的特色を生かした農業や漁業が見られること、土地を集約的に利用していることなどを明らかにし、理解させる。

【学習指導要領の内容項目(3)ア(ウ)】

7 単元構成

単元「世界と日本の産業」(全10時間)

- | | | |
|---|-------------|---------------|
| 1 | 世界の資源の分布と日本 | (2時間) |
| 2 | 世界の中の日本の工業 | (2時間) |
| 3 | 世界の中の日本の農業 | (4時間)【本時は3/4】 |
| 4 | 世界の中の日本の漁業 | (2時間) |

8 単元の評価規準

| ア社会的事象への 関心・意欲・態度 | イ社会的な思考・判断 | ウ資料活用の技能・表現 | エ社会的事象についての 知識・理解 |
|--|---|---|--|
| 日本の工業の移り変わりや、現在の課題などに関心をもっている。 身近な食生活と結びつけて世界の農業や、日本の農業を理解しようとしている。 | 資源やエネルギーの大量消費が環境や生活に与える影響を考えている。 気候などの自然条件や社会的条件と関連づけて日本の農業の特色を考えている。 「とる漁業」から「育てる漁業」へと変わっている原因を、日本をとりまく国際環境などと関連して考えている。 | 世界の資源の分布にはかたよがりがあること、日本はその多くを輸入に頼っていることを資料から理解している。 我が国の漁業の特徴をグラフや資料を参考に、まとめている。 | 先進工業国の地域的分布を把握し、発展途上国との南北問題を理解している。 日本の農業がさまざまな問題をかかえながらも安定した食糧の供給ができるように努力していることを理解している。 |

9 単元の指導計画（全10時間）

| 学習内容 (時数) | 評 価 | | | | 評価方法 |
|--|-----|---|---|--|--|
| | 関 | 思 | 技 | 知 | |
| 1 世界の資源の分布と日本(2) 生活を支える資源 かたよる資源の分布 資源開発の問題 なくなる資源 | | | | ウ 世界の資源の分布にはかたよがりがあること、日本はその多くを輸入に頼っていることを資料から理解している。 イ 資源やエネルギーの大量消費が環境や生活に与える影響を考察している。 | 白地図 ワークシート 発表内容 行動観察 |
| 2 世界の中の日本の工業(2) 世界の工業の盛んなところ 工業の発達と格差 日本の工業の特色 変化する工業 日本の工業と国際関係 | | | | エ 先進工業国の地域的分布を把握し、発展途上国との南北問題を理解している。 ア 日本の工業の移り変わりや、現在の課題などに関心をもっている。 | ワークシート 発表内容 |
| 3 世界の中の日本の農業(4) 世界のさまざまな農業 アジアの農業と日本の農業 日本の農業の特色 日本の農業の特色（本時） （青森県のりんご栽培） 変化する日本の農業 ゆれ動く日本の米づくり | | | | ア 身近な食生活と結びつけて世界の農業や、日本の農業を理解しようとしている。 イ 気候などの自然的条件や、社会的条件と関連づけて日本の農業の特色を考察している。 エ 日本の農業がさまざまな問題をかかえながらも安定した食糧の供給ができるように努力していることを理解している。 | 発表内容 行動観察 ワークシート 発表内容 ワークシート |
| 4 世界の中の日本の漁業(2) 世界最大の漁場と日本 日本の漁場のあゆみと特色 つくり育てる漁業 | | | | ウ 我が国の漁業の特徴をグラフや資料を参考に、まとめている。 イ 「とる漁業」から「育てる漁業」へと変わっている原因を、日本をとりまく国際環境などと関連して考察している。 | ワークシート 発言内容 ワークシート 行動観察 |

10 本時の展開

(1) 本時の目標

日本の「穀倉地帯」である東北地方の青森県におけるりんご栽培を通して、自然条件を生かし、農業の多角化が進んだ日本の農業の特色と人々の努力を理解させる。

(2) 観点別評価規準

社会的な思考・判断

気候などの自然条件や、社会的条件と関連づけて日本の農業の特色を考察している。(イ)

(3) 準備物

教科書、ワークシート、資料、プロジェクター、スクリーン、コンピュータ

(4) 学習の展開

| 学習内容・学習活動・発問 | 指導上の留意事項 | 評価規準 | 評価方法 |
|---|---|------|------|
| <p>1 米の生産地域の確認 日本の農業の中心的な作物は何だろうか 生徒...米 米の生産量が最も多いのは何地方だろうか 生徒...東北地方</p> <p>2 りんごの生産地域の確認 りんごの生産量が最も多いのは何県だろうか 生徒...青森県</p> <p>3 りんごと米の価格の移り変わりについて考える 資料 自分だったらりんごと米とどちらを生産するか 生徒...米, 安定している</p> <p>4 学習課題の提示 青森県は米の生産量が多い東北地方にありながら、なぜ、りんごの生産を一緒に行うのだろうか</p> | <p>全国の約1/4を生産 青森県は11位(平成13年)</p> <p>全国の約1/2を生産</p> | | |
| <p>課題：(価格も不安定なのに)なぜ、青森県では米とりんごを一緒につくるのだろうか</p> | | | |
| <p>生徒...簡単につくることできる 儲けが大きい</p> | | | |
| <p>5 農家の経営のようすをつかむ 資料 「りんご暦」を見て、米づくりをしながら、その合間に簡単につくることできるだろうか 生徒...できない 忙しい時期が一致している 「生徒作文」を読んで、儲けが大きいと言えるだろうか 生徒...儲けは少ない</p> | <p>年間を通していろいろな仕事があること、米づくりと忙しい時期が一致することを読み取らせたい</p> <p>苦勞の割にもうけが少ないことを読み取らせたい</p> | | |
| <p>課題の再提示：値段も不安定で労力もかかり儲けも少ないのに、なぜ、青森県では米とりんごを一緒につくるのだろうか</p> | | | |
| <p>6 青森県の米の作況指数の変化について考える 資料 青森県の米の作況指数の変化のグラフを見て、何か気づいたことはありますか 生徒...年によって作況指数がちがう 極端に作況指数が悪い年がある</p> | <p>「作況指数」について説明する 【収穫量の平年比】 106以上 良 102～105 やや良 99～101 平年並み 95～98 やや不良 94以下 不良 米の場合は90以下が</p> | | |

| | | | |
|--|---|---|------------------------|
| <p>作況指数が極端に悪い年には何があったのだろうか 生徒...異常気象, 天災, 自然災害</p> <p>7 青森県の米とりんごの作況指数の変化について考える 資料 この二つのグラフを見て, 何か気づいたことがありますか 生徒...米の作況指数が悪い年であっても, りんごの作況指数は悪くない りんごの作況指数が悪い年には, 米の作況指数は悪くない</p> <p>米は冷害があるので, りんごを栽培して収入を補おうとしたことを理解する</p> <p>8 りんご栽培の自然条件 なぜ, みかんではなく, りんごを栽培したのだろうか 生徒...りんごは寒い地域が栽培に適しているから</p> | <p>著しい不良 作況指数が50以下の年に着目させる 年によって東北地方の太平洋側を中心に発生する「やませ」による冷害について説明する 米の作況指数の変化のグラフの上に, りんごの作況指数の変化のグラフを重ねて提示する 米の作況指数の変化 資料3のグラフの読み取り状況をもとに, 努力を要する生徒については, グラフの読み取りのポイントをマーキング等によって示す 「やませ」はりんごに対しては冷害として作用しないことを読み取らせたい 米とりんごの作況指数の悪い年が一致しないことを読み取らせたい 1945年が両方ともに作況指数が悪いのは戦時中だったためであることを説明する</p> <p>広島県のりんごの生産地域等をもとに考えさせる 青森県が決して最適地ではなく, 袋かけなど様々な努力により栽培技術を進歩させてきたことを説明する</p> | <p>イ 気候などの自然条件や, 社会的条件と関連づけて日本の農業の特色を考察している</p> | <p>ワークシート 発表内容</p> |
| <p>9 まとめ なぜ, 青森県では米とりんごを一緒につくるのだろうか 青森県はやませなどのために冷害がおきやすく, 米の収穫が減った そこで米からの収入を補うものとして青森県の気候条件に合うりんごの栽培もあわせておこなわれるようになった 日本の農業の特色として, 農業の多角化が進んでいることを説明する</p> | <p>努力を要する生徒についてはヒントを用意する 重要語句を()で抜いた まとめの文 ()に当てはまる語句 『やませ・米・りんご・冷害・収穫・気候』</p> <p>他の地方への転用を図る アメリカ合衆国の農業(適地適作)と対比させる</p> | | |

- 11 参考文献
 中学校社会科教育実践講座5「国土と人々の生活」：教育出版センター
 中学校社会科指導展開事例集「地理」：東京法令出版
 中学社会 地理的分野 研究と資料：大阪書籍